

1994  
2014  
3 / 15

# 府職の友

発行所/大阪府関係職員労働組合  
〒540-0008 大阪市中央区大手前2-1-59  
電話 06(6941)0351・内線3740  
直通06(6941)3079 FAX06(6941)4541  
Eメール info@fusyokuro.gr.jp  
URL/http://www.fusyokuro.gr.jp  
発行人/有田 洋明 編集人/樋口 浩之  
(一部10円)組合員の購読料は組合費に含まれています。

業務量に見合った人員配置で  
**長時間労働を  
解消しよう!**  
「サービス残業」は  
違法です

## 第3回 住民団体との要求懇談会 開催

# 大阪府の仕事を住民とともに考える

## 国・府・市の三重の行政で いのちとくらしを守るのが行政の役割

府職労は2月23日、「2月府議会にむけた住民団体との要求懇談会」を開催しました。住民団体から10団体10名、府職労から本部・支部役員33名が参加しました。

開会にあたって、有田委員長は「大阪府が低迷し、府民のくらしも深刻な状態になっている。橋下知事就任以降の6年間をみても、医療や福祉、教育など生活関連予算を約1500億円も削減している。府立の病院や研究所を独法化し、公設の指定管理者制度、市場化テストの導入など、公的責任を放棄している。今こそ府民に役立つ大阪府の役割を果たすため、住民と

の共同を広げてがんばりたい」とあいさつしました。続いて竹中副委員長が「大阪府2014年度当初予算」について概要を説明し、府職労・大阪市労働組合同で開催した「地方自治研究集会」や「職場から仕事を直す運動」などの取り組みを報告しました。

また、各支部から特徴的な予算概要について説明し、住民団体のみならず意見交換・懇談しました。



### 環境・公害行政に力を



大阪公害患者の会  
上田敏幸さん

橋下さんが知事および市長に就任した直後に、公害認定患者の見舞金を大阪府・大阪市ともに11万円バッサリと削減した。患者にとっては恨み骨髄だ。見舞金制度は昭和48年にできた制度であり、私たちの訴えを受け止めてくれた職員は異動になった。また、大阪府のPM2.5の数値は、もとも高いにも関わらず、大気汚染に不熱心で、環境農林水産研究所など蓄積がある研究所を独法化している。患者が生きている間に何とか公害行政に力を入れてほしい。

### 難病患者の負担軽減を



大阪難病連  
高橋喜義さん

難病対策の制度変更で対象疾患が拡大されるのは良

### 住民と共同して 地域医療を守る



会をの民病院を  
市市民弘安  
吉させ市民松本  
美さ本松

2013年3月、住吉市民病院の廃止案が可決され、その付帯決議では、地域に小児産科医療が不足していることから、民間病院を誘致することが盛り込まれた。その付帯決議にもついて、民間病院の誘致がすすめられているが、誘致予定の病院に実績や経験がないなどの問題もあり、地元の医師会も反対している。仮に民間病院の誘致が

できないならば、地域医療が守られなくなる。引き続き、住民と共同して地域医療を守る運動をすすめていきたい。

### 子ども医療費 中学生まで無料に



歯科保険医協会  
和田 武さん

大阪府のすべての公立小中学校を対象に「学校歯科治療調査」を実施している。ある児童が「要受診」と診断され、実際に歯科受診をすると「経過観察」と診断されたため、その保護者が「学校で行けと言われて行ったのに経過観察になったではないか」と怒るケースもある。その原因は費用負担がかかるためであり、未受診が多いことの原因に深刻な貧困の問題がある。せめて中学校卒業までは受診料を無料にしてほしい。国は各自自治体に対し、口腔保健条例の制定を求めているが、大阪府は条例化せず、計画しか立てないという姿勢のようである。きちんと条例化してほしい。

### 障がい者対策は 広域行政で

初めて参加した。「きょうされん」は、全国191



きょうされん  
大阪支部  
雨田信行さん

6ヶ所、大阪府では153ヶ所が加盟する共同作業所などの組織である。府職労のみならずの住民要求にこたえて仕事をしようとする姿を知り、感銘している。障がい福祉では、介護保険優先の原則があり、65才になると、これまで無料で受けていたサービスが1割負担になり、その対応で市町村格差が生まれている。市町村が実施主体のため、府が遠く感じることもなくなる。しかし、数が少ない障がい者対策こそ、市町村丸投げではなく広域でやるべきだ。「二重行政の解消」というのが、大阪府には広域行政としての大事な役割がある。

### 生活保護行政に 必要な人と予算を



全大阪生活と  
健康を守る会  
秋吉澄子さん

橋下市長になって、浪速区・西成区では生活保護受給者に対し、医療費の締め付けがすすめられ、1診療1病院が押しつけられている。労働者の賃金が減らされ、貧困と格差が広がり、生活保護を必要としている人は増えているのに、予算は減らされている。京都府では「生活保護の基準を下げる」ということは生活保護者の実

## 遊歩道

消費税の増税と社会保障制度の改善がすすめられています。自分の生活もですが、担当して

いる病気のある住民の方々の療養生活がままならなくなるのではと心配でなりません。現状でも「保健師さん、私が要介護5になったらこれ以上支払えないので死ぬしかないですわ」とか、「夫が病気になる、収入も年々減らして消費税が上がると不公平です。生きていくために必要なものはみんな同じで、病気があって働かなくても働かず介護をしないといけないのに」という声を訪問に行くたび耳にします。前者の方は介護サービスを受けるために節約をし、食費しか削れないので、賞味期限の切れたおにぎりを安く大量に買い、冷凍して三食それを食べて生計を保っています。そんな状況なので、もっと生活しやすくできる支援プランがあっても、そのサービスを利用したら一割負担が発生し負担が増えるので、サービスを受けるのを嫌がります。現在でもそんな状況なのに、今後どうなるのか、自分に何ができるのかと考えると、制度の改善と消費税増税を撤回してもらうよう地道に声をあげていくしかないと思います。(N)